



電子決済等代行事業者協会

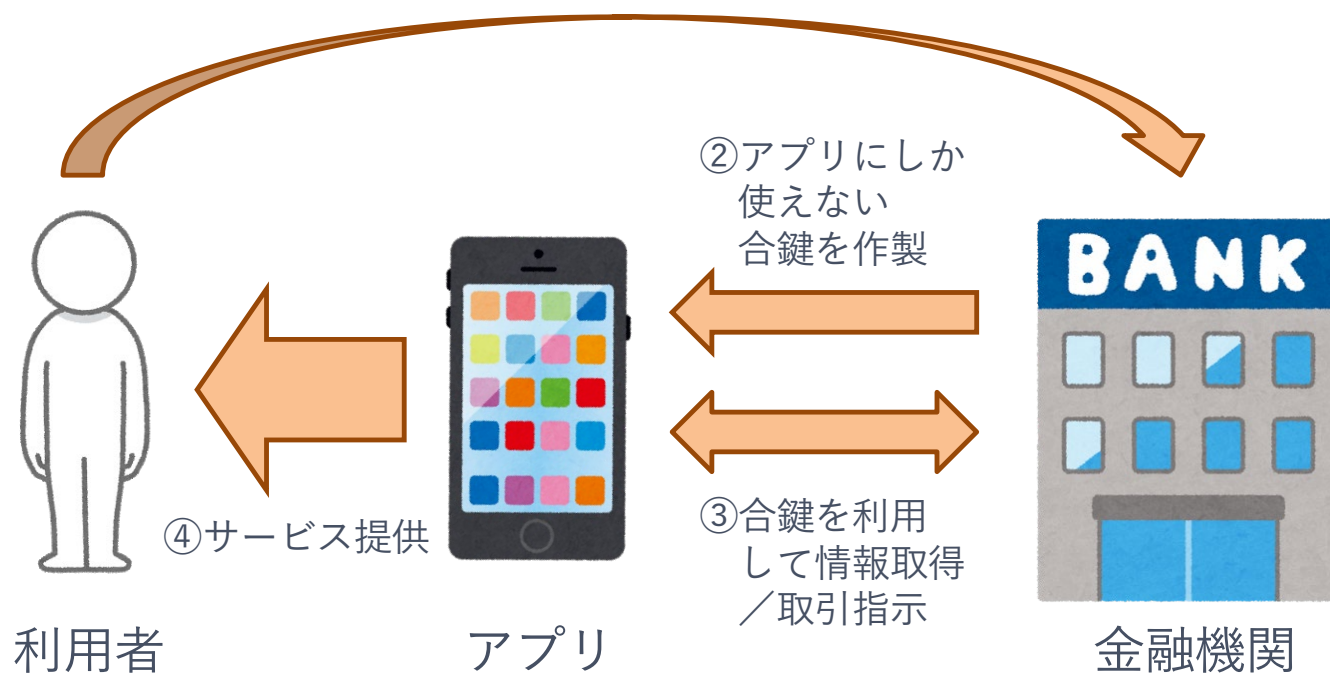
API活用の現状と課題

2022年3月10日
一般社団法人電子決済等代行事業者協会
代表理事 瀧 俊雄

オープンバンキングの進展

- 2016年より参照系APIの連携が開始
- 2018年の改正銀行法を受けて、既存の会計・家計簿ソフト等が電代業として登録、各金融機関との接続契約を締結
- 契約手続きの標準化に向けて、業界団体間での連携を実施

①アプリがデータ参照や取引指示を行う権利を認可



- デジタル化が進む中、頻度の高い金融取引については、金融機関のインフラではなく、ユーザーが継続的に接するサービス上で提供することが、B2C・B2Bの双方で重要に（Embedded Banking）
- 特定のパートナー（自社含む）ではなく、広範なプレーヤーを対象とする機能開放ではAPIを活用したサービス提供が不可欠に

	デジタル化前	デジタル化後
本人確認	物理的要素（通帳・印鑑）による確認	情報連携・eKYC等を用いた認証
生活資金の引き出し	ATMで現金引き出し	決済アプリへのチャージ
残高照会・記帳	ATM利用、インターネットバンキング利用	通帳アプリ、家計簿アプリ、会計ツール等でのデータ参照
振込	窓口・ATM・IBからの取引指示	決済需要が生まれるデジタルサービス内で取引指示・認証
決済面での利便性提供手段	繁華街へのATMの設置	決済需要の多いアプリ等各種デジタルサービスとのAPI連携

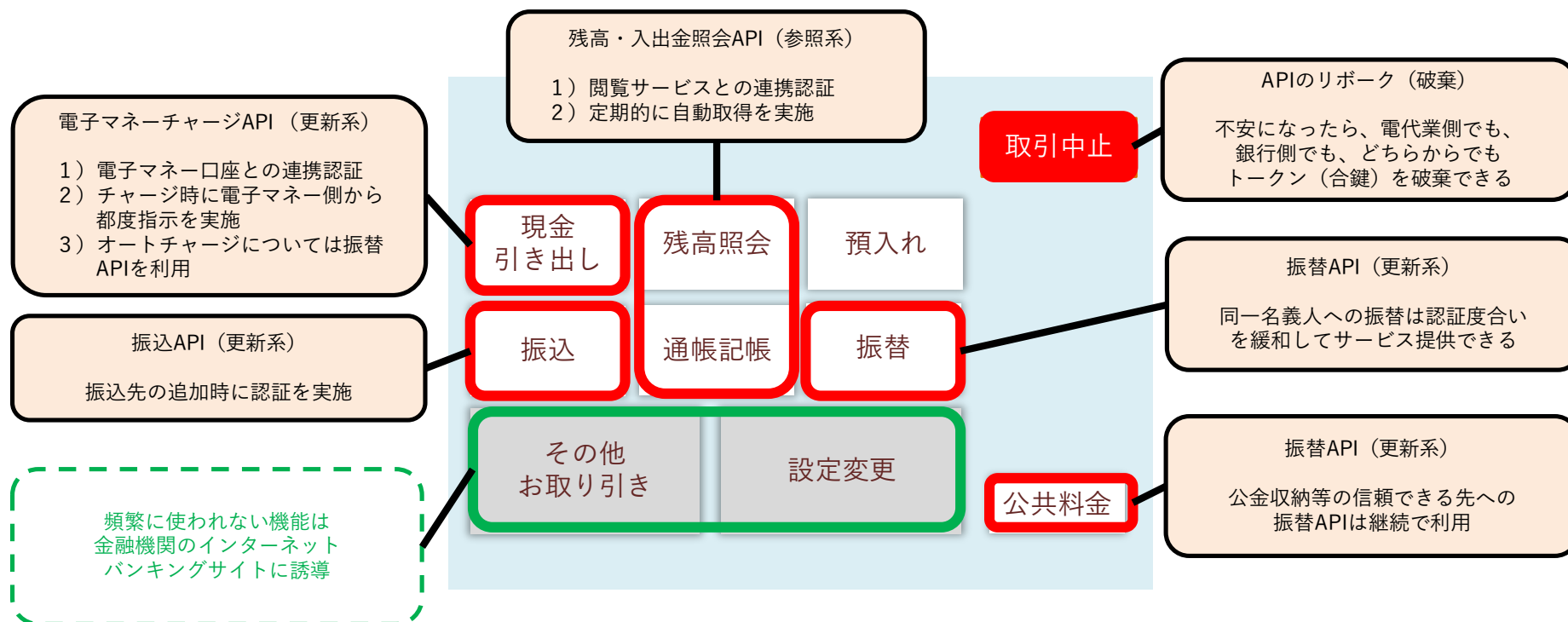
- Software is eating the world (2011)
- Every Company Will Be a Fintech Company (2020)
- 「ソフトウェアが世界を食べつくした」世界では、ユーザー体験を引き寄せるアプリに、与信と決済ニーズが集中
- ソフトウェア企業がUXの戦場で争う中、金融のモジュール化自体は必至

金融機能のモジュール化



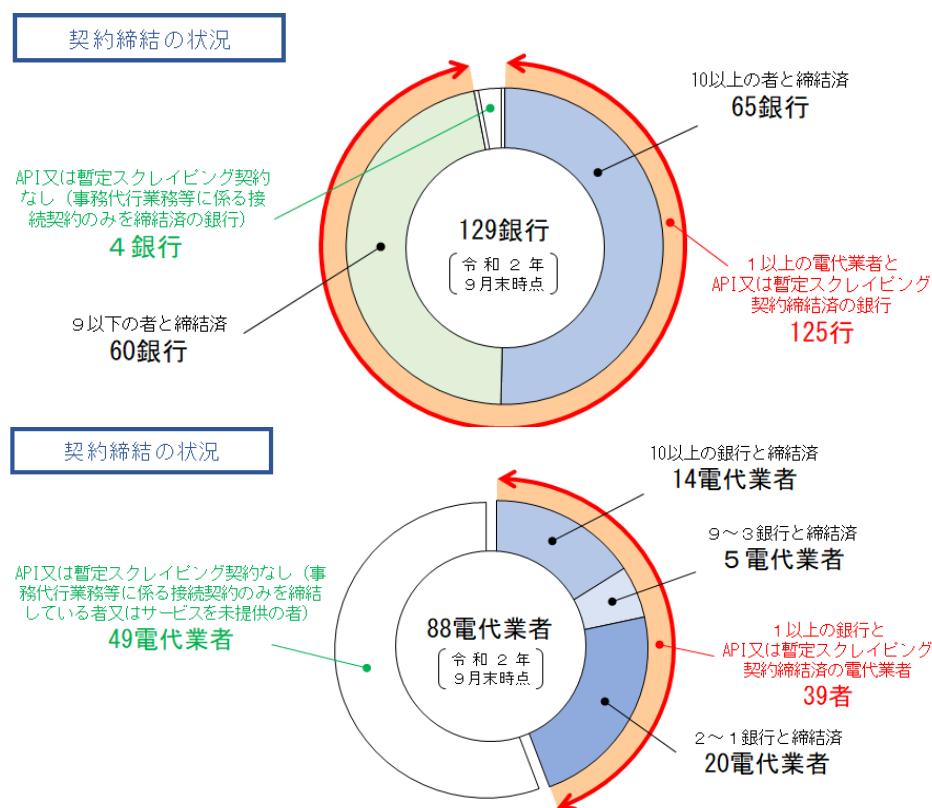
(出所) ” Every Company Will Be a Fintech Company”
<https://a16z.com/2020/01/21/every-company-will-be-a-fintech-company/> より引用

- 現金中心の世界における最重要インターフェースはATM
- 脱現金社会では、ユーザーの行動・生活に根付いたアプリが最重要のインターフェースとなる。その裏側で、頻度の高い手続きがAPIで提供される



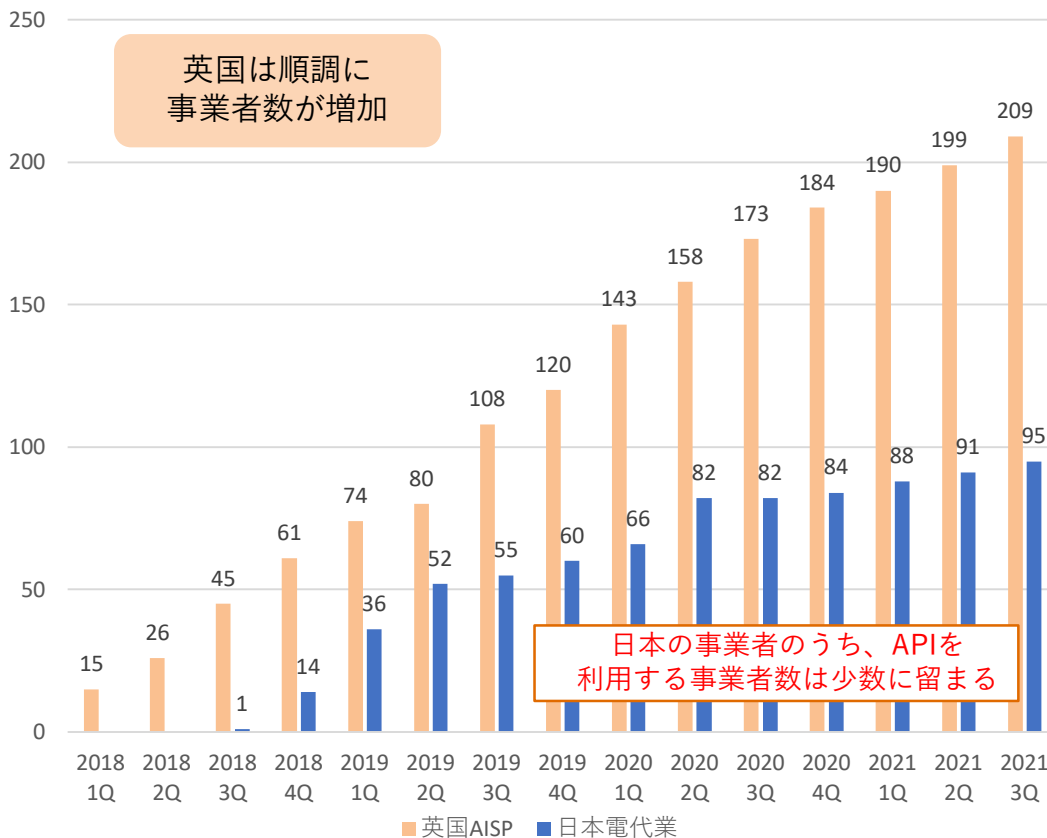
API接続状況（2020年9月時点）

- ほぼすべての銀行と参照系APIで接続できる世界的にも稀な環境が誕生
- 各種団体（全銀協・FISC等）の協調で、多数契約の共通化・省コスト化が進展
- 一方で、更新系APIを提供する銀行は少数に留まり、電代業⇒金融機関に価値還元する方法は限定されている



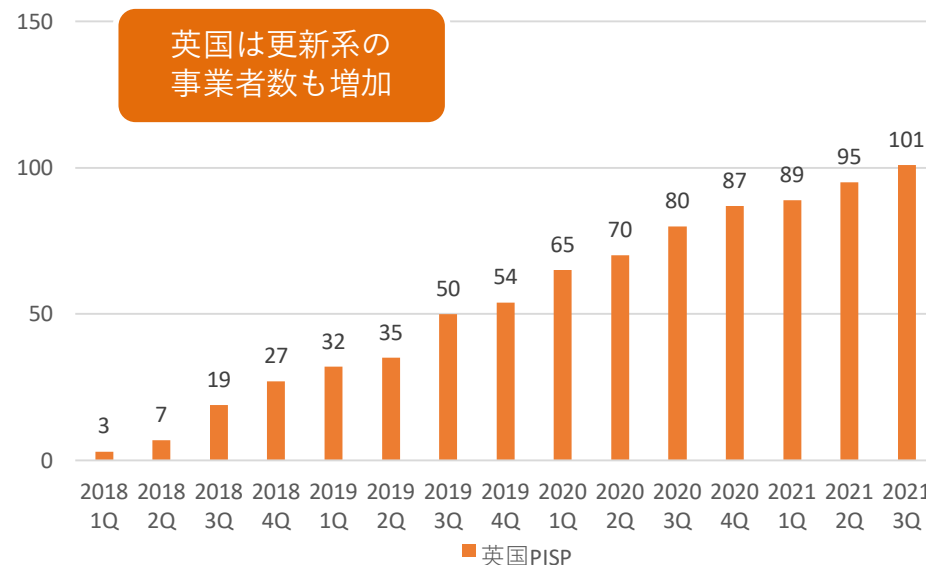
（出所）金融庁「銀行と電子決済等代行業者との間の契約締結の状況について」（R3年3月31日付）より画像引用

日英の電子決済等代行業（相当）の団体数推移



AISP: Account Information Service Provider
= 日本の参照系サービスに相当

PISP: Payment Initiation Service Provider
= 日本の更新系サービスに相当

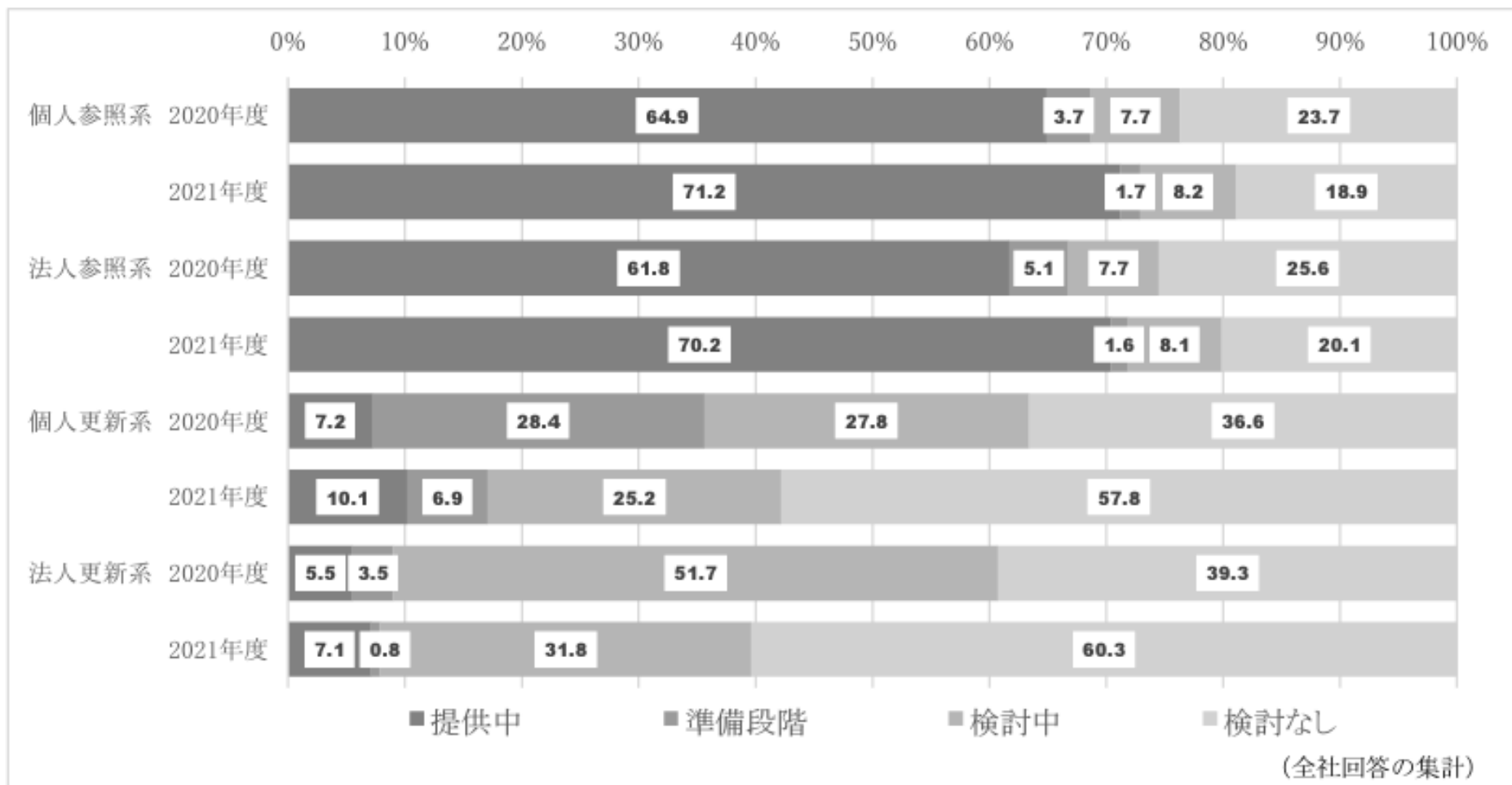


(出所) FCA (英国金融行為規制機構)、金融庁の原データを当協会でご提供

<https://register.fca.org.uk/s/search?predefined=AIPISP>
<https://www.fsa.go.jp/menkyo/menkyoj/dendai.xlsx>

補足: FCAの左記サイトではAISP, PISPサービスの登録又は認可を受けた事業者に加えて、上記サービス実施を許可された電子マネー機関も含めている。

金融庁のデータは「電子決済等代行業者登録一覧」(2022年1月27日現在)を参照



(出所) FISC『2021年度 API接続チェックリスト見直し要否 対応方針』(2022年1月20日公表) より画像引用
https://www.fisc.or.jp/document/fintech/file/FinTech_20220225_05.pdf

参照系のデータ接続は進んだが、更新系の接続は限定的。
結果として新規参入（金融の魅力度を上げる存在）が限定的

足元の課題

- 更新系APIの進展が限定的
- 日本には「データアクセス権」が存在しない
- インターネットバンキング利用率（個人・法人）

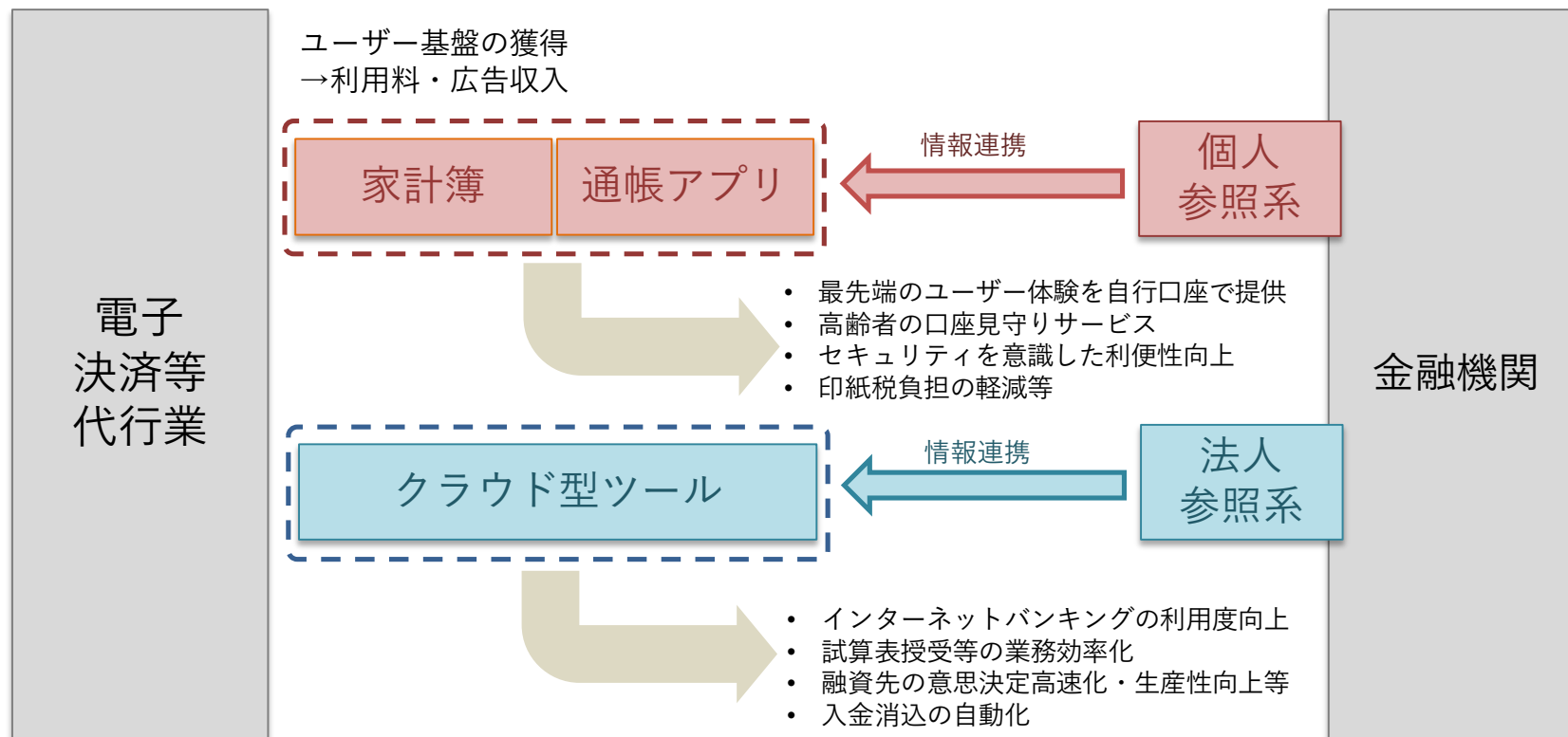
長期的な課題

- 「国内銀行業務」の魅力
- 日本の生活インフラを維持する観点でのチャネル投資
- 金融機関による本人確認・デジタルIDの提供に向けた議論

参考資料

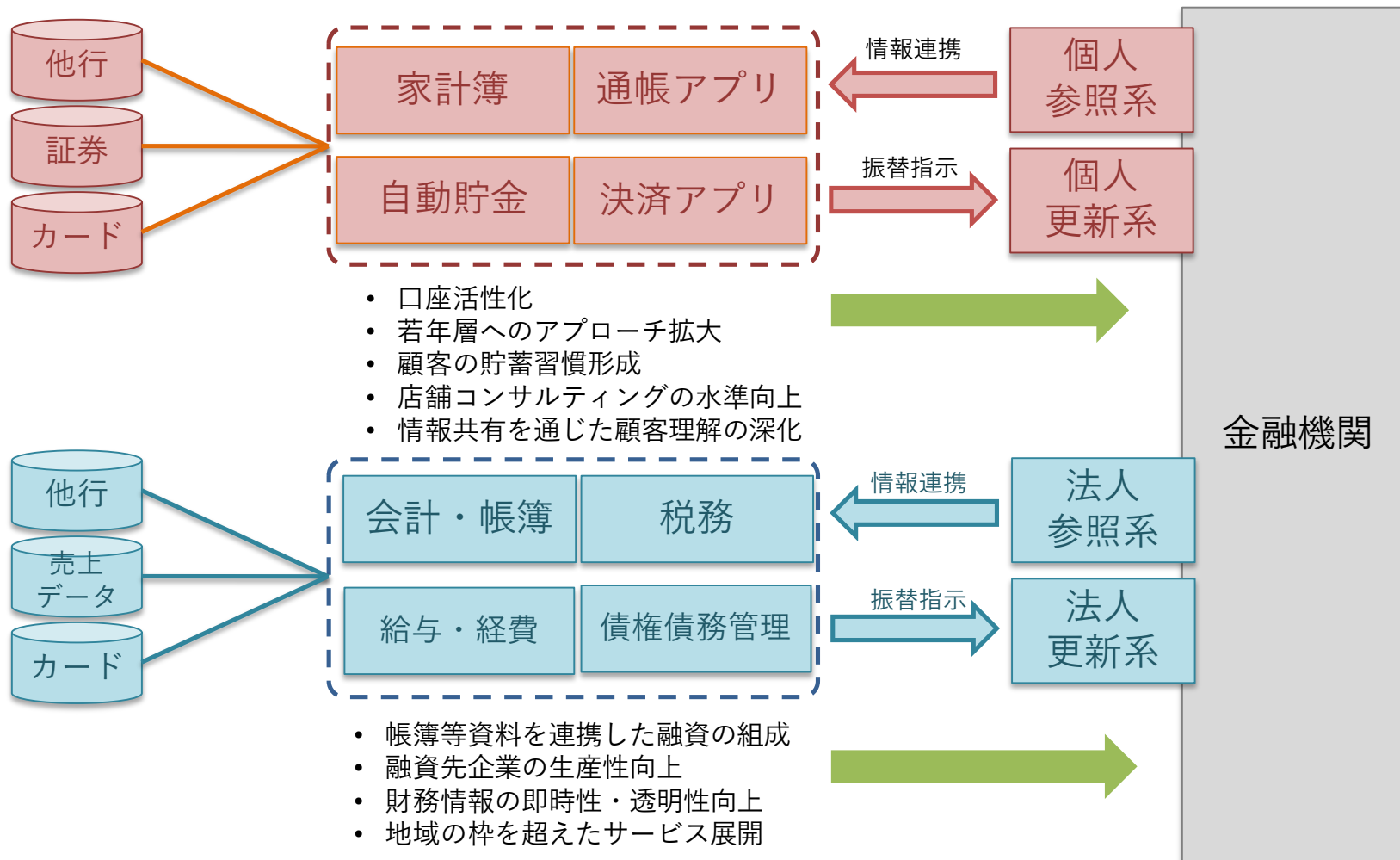
1. 参照系APIを活用したユースケースとメリット

- 様々な外部サービスとの連携で、メインバンクとしての口座活性化がみられると共に、金融機関に対するロイヤリティも向上



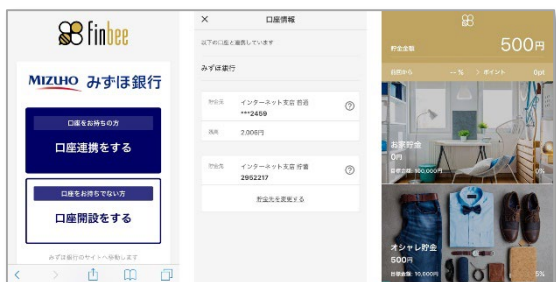
2. 更新系APIを活用したユースケースとメリット

- 電子商取引／オンラインサービスの市場における決済手数料の獲得
- 外部サービスから即時の与信が可能となり、融資が拡大



3. 銀行組織内におけるイノベーションの取り組み変化

- 個人向け
 - 一連のオープンイノベーションを通じて、自行だけでは実現が難しい**ユーザーの生活を支える様々なデジタルサービスとの連携が可能**となり、ユーザーに新しい価値提供が実現。また、現場レベルでの**意思決定が柔軟かつスピーディ**に
- 法人向け
 - オペレーショナルな負担が大幅軽減することで、**コスト削減**が実現
 - 金融機関が帳簿データを手軽に活用し**資金繰りや経営へのサポートを強化**
 - クラウドツール等の提供を通じ、顧客企業にITを活用した生産性向上を実現する**コンサルテーションが実現**



横浜銀行様: モバイルバンキングの事例

他行・証券・クレジットカード・電子マネー・ポイントなどを一元化

<課題>
自銀行を含めたすべての金融機関情報をアプリ内に表示したい。

<解決方法>

- ✓ 自行を含め、すべての金融機関情報をMT LINK経由で取得。
- ✓ NTTデータの銀行APIを利用し、ネットバンクのID/パスワードは弊社に預けることなく接続。
- ✓ 今後、UIのさらなる強化を検討中。

MT LINK
by Moneytree

銀行の
個人口座API

証券・
クレジットカードAPI

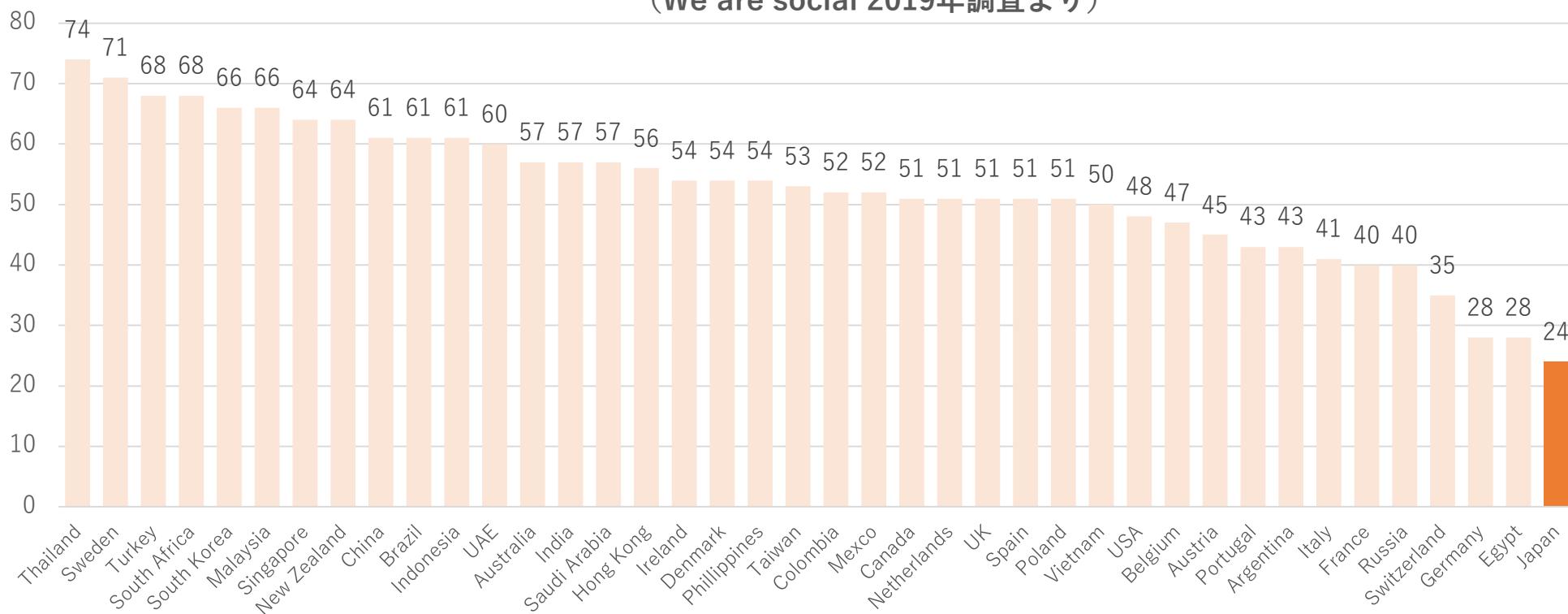
WEB用の
開業連携

Copyright © 2019 Moneytree KK. Strictly Confidential

静岡銀行

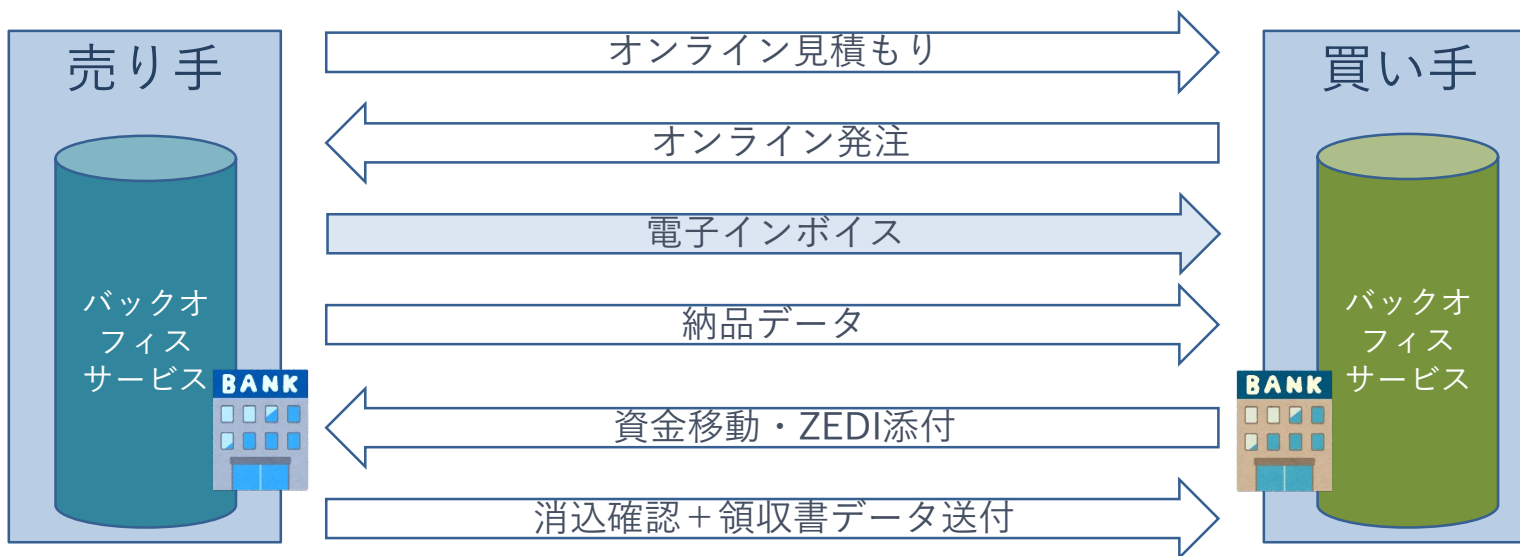
TOP CASE STUDY 異業種企業との交流や共創が、金融サービスの新たな流れをつくっていく。

モバイルデバイスで銀行サービスへアクセスするインターネット利用者の割合 (%)
(We are social 2019年調査より)



(出所) <https://wearesocial.com/uk/blog/2021/01/digital-2021-uk/><https://wearesocial.com/uk/blog/2019/01/digital-in-2019-global-internet-use-accelerates/> スライドP247 「Percentage of Internet Users that accesses Banking Services via Mobile Device」

- 売り手側の自動化： 請求書作成⇒売上計上⇒入金消込 (債権請求)
- 買い手側の自動化： 請求書受領⇒承認ワークフロー⇒振込⇒計上 (債務管理)



売り手の自動化に必要な整備

- 電子インボイスが送信できるソフトウェア
- 銀行での参照系API (入金情報・ZEDI参照)

買い手の自動化に必要な整備

- 電子インボイスを受領できるソフトウェア
- 銀行での振込指示API
- 銀行でのZEDI添付API